

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：24403

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K18278

研究課題名(和文) 宗教的聖地における聖性イメージとマネジメントに関する研究

研究課題名(英文) The study of sacred image and management on religious sacred site.

研究代表者

花村 周寛 (Hanamura, Chikahiro)

大阪府立大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：00420430

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：国内外の宗教的聖地の現地調査を通じて聖性イメージに関する資料を収集し分析を行った。その知見を元に宗教学者の鎌田東二と聖地について対談し考察した内容を「ヒューマンスケールを超えて」(ぶねうま舎)として2020年に出版した。また2020年以降は観光と地域マネジメントの課題が急変したため、コロナパンデミックにおける地域マネジメントと聖性イメージへの影響についての情報を収集した。その成果の一部を2022年に単著「まなざしの革命」(河出書房新社)、観光学会のシンポジウム「観光と倫理」、第16回地球研国際シンポジウム「the arts of living for nature」にて成果発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

オーバーツーリズム化で観光地化が進む宗教的聖地において、それまで担保されていた聖なる雰囲気が壊れつつある状況があった。そのため人々のまなざしにとっていかなる要因が聖性イメージを創出するのかを分析した。また2020年以降はパンデミックにより課題が急変したため、コロナ下における人々のまなざしの変化および地域マネジメントと聖性イメージへの影響について考察を加えた。これらの成果を学術発表の他、出版を通じて社会に広く公開した。

研究成果の概要(英文)：Through field surveys of religious sacred sites in Japan and overseas, I collected and analyzed materials on images of sacredness. Based on this analysis, I discussed sacred sites with religious scholar Toji Kamata and published the contents as "Beyond the Human Scale" (Puneumasha) in 2020. In addition, since the social issues of tourism and regional management have changed rapidly since 2020 because of covid19 pandemic, I have gathered information on the impact of the pandemic on regional management and the image of sacredness. In 2022, I presented some of the results at the single-authorship "Revolution of perspectives" (Kawade Shobo Shinsha), the symposium "Tourism and Ethics" of the Japan Society for Tourism Studies and the 16th RIHN International Symposium "The Arts of Living for Nature".

研究分野：ランドスケープデザイン、観光研究、地域マネジメント

キーワード：宗教的聖地 聖性イメージ マネジメント 観光 まなざし

## 1. 研究開始当初の背景

宗教的聖地は歴史的に共同体を精神的に結びつけてきた重要な場所である。それと同時に現代社会における聖地は、宗教空間としての価値のみならず文化的空間としての認識が高まっている。信仰による共同性が薄れつつある現代において、宗教や文化の違いを超えてその価値を共有し、経済的に聖地を維持する手段となる観光は大きな可能性を持つ。

しかしその一方で、観光化が近年急速に拡大することで様々な問題が発生している。観光開発による景観の改変、周辺に乱立する看板やサイン、集中する商店や客引き、無関係なキャッチコピーや過度な印象操作など、聖地において場の聖なるイメージを損なう事態は深刻化している。特に観光現象の加速に伴い、2020年のコロナパンデミックによって観光現象が停滞するまでは、観光客によるマナーを逸した振る舞いと聖地の管理・保全とのバランスは差し迫った課題であった。観光に際しての倫理の問題はますます大きくなっている。

通常の観光地や文化遺産のマネジメントとは異なり、聖地では独自の運営管理の方法論が必要である。聖地の訪問者の体験にとって荘厳な感覚や特別な雰囲気といった聖なる印象を指す「場所の精神(spirit of place)」が重要であるが(Shackley,2001)、それらは具体的な空間構造や細部のデザイン(物理要素) また場での出来事や人々の行為(行動要素) あるいは場所に付与される意味や情報(意味要素)によって導かれた総体であると考えられる。また人々の意識の中で創出される「聖なるまなざし」によってそうした雰囲気が生まれることは、観光研究の中で理論的に一定の整理がされている(Urry,1995、Turner,1996、MacCannell,1999 ほか)。

本研究ではこうした具体的な要素から場に導かれる聖なる雰囲気を「聖性イメージ」と名付け、それが聖地のマネジメントといかに関係するのかを探ることを課題としている。場の聖性は適切なマネジメントがなされねば損なわれるため、聖性イメージとマネジメントとの適切な関係を考察することが本研究課題の核心となる問いである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、宗教的聖地における空間構造や細部のデザイン、また関わる人々の行為や行われる出来事、場に付与された情報や意味を調査し、それらの総体から導かれる聖性イメージをマネジメントとの関係から考察することである。

本研究では、これまで継続してきた実践研究での知見より、管理者や設計者といった運営管理及び演出側のまなざしと、観光客のまなざしの相違を通じて聖地を分析することに特徴がある。学術的には聖性イメージ分析を、空間計画学的な視点から、聖地の建築空間や緑地空間をはじめとする空間構造や物理形態のハード面(物理要素)および、人の動きや行為やイベントといった人間行動のソフト面(行動要素)との関係から行い、さらに場所に演出側から付与される情報や仕掛けによって、人々の意識や意味による価値付けを捉えるまなざし(意味要素)を加えることに独自性があると考えられる。特に意味要素については倫理的な観光の観点からも考察を加える。

## 3. 研究の方法

本研究は国内外の宗教的聖地を中心に、1. 既存研究のレビューと文献・資料分析、2. 宗教的聖地の地理的分布の分析、3. 対象地の抽出と現地調査(物理要素、行動要素、意味要素)による聖性イメージの把握、4. 関係者への聞き取り調査によって、それぞれの聖地における聖性イメージを把握しそのデザインおよびマネジメントに関する分析及び、聖性イメージについて観光と倫理の観点からも考察を行った。調査に関しては、世界遺産を中心に、聖地化した観光地と観光地化した聖地の両方を現地調査を通じて比較することで考察を深めた。

## 4. 研究成果

調査に関しては研究期間の前半は国内外の現地調査が行えたが、後半はコロナパンデミック下にもなう都市封鎖や移動制限などによって観光現象事態が全世界的に一変し、当初の研究課題を大きく方向転換する必要性に迫られた。したがって、コロナパンデミックによる社会状況の変化に伴う観光現象の調査と把握にも務め、観光と倫理に関する考察を加えることとした。

期間中のパンデミック前における国内調査では、新潟県で実施された国際的な芸術祭において、社寺での芸術作品の設置と聖性イメージとの関連、静岡県富士山本宮浅間大社をはじめとする世界遺産として登録された富士山山麓の聖地、また山形県の羽黒修験の聖地であり日本遺産として登録されている出羽三山の現状の観光状況と聖性イメージの調査から、それらの物理要素における共通性について分析を加えた。

また国外調査ではポーランド及び英国において、ヴィエリチカ岩塩坑やアウシュビッツ・ビルケナウ収容所などダークツーリズムも含めた遺産活用をした観光マネジメントの調査より、元々聖性を帯びていなかった場所において、意味要素により聖性イメージが付加されるプロセスについて分析した。英国においては、世界遺産である古代祭祀場ストーンヘンジのバスツアーに関する調査を行ない宗教的聖地の聖性イメージを損なわない観光マネジメントのあり方を分析した。

コロナパンデミック後は海外調査が難しくなったため、国内の都市圏を離れた地方の宗教的聖地として、御岩神社をはじめとする茨城県の宗教的聖地、および宇佐神宮をはじめとする大分県の国東半島の宗教的聖地、香川県の賀茂神社をはじめとする宗教的聖地を調査し、コロナ禍における観光状況とそのマネジメントおよび参拝行動などの事例を収集し状況を分析した。

またヒアリング調査については、日本のオーバーツーリズムの状況に関して、京都の錦市場、花見小路といった市街地での状況を地域住民および地元事業者にインタビューし、宗教地の観光マネジメントについては奈良の金峯山寺へヒアリングを行なった。海外ではロンドン都心部のオーバーツーリズム状況についてウエストミンスター大学の観光研究者との意見交換を行なった。

学会発表に関しては、人工知能学会の仕掛学研究会への参加、および韓国ソウルの建国大学にて行われた国際会議で研究発表を行った。また宗教学者との対談を行い、宗教的聖地の状況のみならず幅広く世界の文化状況などについて意見交換を行った。研究の最終年度には観光学術学会のシンポジウムにて「観光と倫理」についての研究発表および、総合地球環境研究所が主催する国際シンポジウムにおいても研究の一部を発表した。

また著作に関しては、「Postdisciplinary Knowledge」(Routledge)での論文発表および、宗教学者の鎌田東二氏との対談をまとめた「ヒューマンスケールを超えて わたし・聖地・地球」(ぶねうま舎)を出版した。またコロナパンデミック下での社会状況の中でも観光現象に関する考察として「まなざしの革命」(河出書房新社)の一部に研究の知見を含めた。

その他、特筆すべき成果としては、オーバーツーリズム化での観光現象についてのヒアリングを元に映像作品「seeing differently」を制作し、2020年度に欧州の4つの国際映画祭にて受賞した。その内容については学術シンポジウムでも発表を行ったが、受賞することで観光と倫理や新聞メディア(朝日新聞、産経新聞)によって取り上げられた。観光者のまなざしと地元住民とのまなざしの差異を浮き彫りにした映像は観光と倫理の問題を考える上で、国内外に大きな重要なインパクトをもたらしたと考えられる。

今後は本研究も含めたこれまでの調査研究において収集した聖性イメージについて、特に物理要素を中心にした分析と考察を広く社会に共有するべく、ウェブサイトを立てて順次公開していくことを検討中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Chikahiro Hanamura
2. 発表標題 Mediation Art for TranScape
3. 学会等名 文化コンテンツと人文学の調和を通じた産学協力の活性化国際カンファレンス（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花村周寛
2. 発表標題 まなざしの倫理
3. 学会等名 観光学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chikahiro Hanamura
2. 発表標題 Design of Perspective
3. 学会等名 RIHN 16th International Symposium The Arts of Living with Nature（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 鎌田東二、ハナムラチカヒロ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぶねうま舎	5. 総ページ数 302
3. 書名 ヒューマンスケールを超えて わたし・聖地・地球	

1. 著者名 Tomas Pernecky, Chikahiro Hanamura and others	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 296
3. 書名 Postdisciplinary Knowledge	

1. 著者名 ハナムラチカヒロ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 316
3. 書名 まなざしの革命	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Seeing Differently <a href="https://mainichi.jp/articles/20201215/pls/00m/020/111000c">https://mainichi.jp/articles/20201215/pls/00m/020/111000c</a> TOURFILM RIGA <a href="https://www.tourfilmriga.lv/tourfilm/seeing-differently">https://www.tourfilmriga.lv/tourfilm/seeing-differently</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関